

製作現場最前線

No.61

KANBAN SHOP ジュン企画

(山梨県甲府市)

代表取締役・降矢 忠氏

「看板から幸せをつくる
想いを伝える製品を提案」



降矢 忠社長 (57歳)

『企業データ』

創立/1981年10月

資本金/300万円

社員数/5名

所在地/本社・工場

山梨県甲府市下小河原町41-6

TEL・FAX/055-241-4849

URL/http://www.jun-kikaku.jp

E-mail: info@jun-kikaku.jp

『営業品目』

各種看板の企画・デザイン・製作・施工・メンテナンス、インクジェット出力、マーキングフィルム、鉄骨加工、ホームページ制作他

『主な設備』

ソルベントインクジェットプリンタ1台/カッティングマシン1台/Windows 4台/昇降盤1台/1tトラック1台/ほか各種



甲府市下小河原町の本社外観。



①アットホームな事務所内風景。左から降矢社長、千香子夫人、次男・忍氏、久保寺さん、浅川氏
②インクジェットプリンタ（溶剤系）の出力 ③テントの筆入れ。降矢社長は今や貴重な手書き職人でもある

地道な仕事の積み重ねで信頼獲得

“武将・武田信玄”ゆかりの史跡を残す山梨県甲府市。「KANBAN SHOP ジュン企画」は、同市下小河原町（JR中央本線甲府駅から車で15分程）に社屋を構えるサイン製作会社である。

降矢忠社長は、若き日を述懐する。「最初の勤め先はガソリンスタンドでした。ある日、価格表を手で書いていたら、たまたま給油をしに来られた看板屋さんに“上手だね”と声をかけてもらいました。嬉しかったですね。これが、看板の世界に入ることになったきっかけです」

25歳の時に看板製作会社に就職。6年の修業の後、31歳で独立。出身地の甲府にて同社をスタートさせた。

一人で営業を回り、車の文字入れ（手書き）などをこなすうちに、その仕事振りが評判に。「迅速・丁寧・納期厳守を心がけていました。こうした姿勢がお客様からお客様へと口コミで伝わり、徐々に取引先が増

えていきました」。以後26年、着実にキャリアを積み上げていく。

2004年には、現在の「KANBAN SHOP ジュン企画」に社名を一新。

「看板屋は一般の人から見ると中身が見えない職業だと思います。社名にKANBAN SHOPを掲げたのは、“カンバンを売っています”と見た人が分かりやすいようにとの想いからです。当社の店看板を見てもらうことで、看板ってこういうものだよと、お客様視点でアピールしたかった」。効果はテキメン。実際に看板を提案する時でも、話しがスムーズに進むという。

想いが伝わる看板製作を目指す

“想いが伝わる看板を製作する”というのが同社のコンセプト。

今や業界の技術は日進月歩。降矢社長が手で看板を書いていた頃には、想像もできなかったハイテク時代が到来している。「技術は今後も進化の一途を辿るでしょう。ただ、それを追うことばかりに目がいて、



④看板の仕上げ作業 ⑤リクルート・自立看板の施工 ⑥、⑦トラック・コルゲートボディへの貼り施工
 看板施工事例：⑧自社・野立て看板 ⑨甲斐日産自動車・スカイライン展示スペース ⑩リバップ（東海日産ディーゼル、山梨ふそう、山梨いすゞ自動車）・トラックマーキング

本質を忘れるようなことはしたくない。どんなにデザインが良かろうと、光眩い看板であろうと、見た人に想いが伝わらない看板では意味がないと思うのです」

また、看板製作はどうしても、クライアントの好みに偏りがち。「当社では、そのお店を利用してもらうお客様のことを第一に考えたプランを提案しています。そのうえで、クライアントの想いを込めた看板を製作するということです」

クライアントと製作者側の双方が共に考え、ゴールイメージを共有し、見る人に向けた心地良い看板を製作する。それこそが、看板からの幸福発信につながる。降矢社長の信念である。

定評あるグラフィック技術

同社の看板業務は手書きにはじまり、現在はカーマキングやインクジェット出力など幅広く展開している。特に手書きからの流れを汲むカーマキングの技術には、一日の長がある。

グラフィックに特化した看板デザインや施工予想図のシミュレーションも好評。「看板施工の経験を持つスタッフがデザインを手掛けているので、施工班との連携も万全。よくありがちなデザイナーとの衝突も、当社は無縁です」

HP制作やマーケティングにも傾注

設備投資に対しても、積極果敢な姿勢をみせる。

1990年、当時県内では導入が進んでいなかったカッティングマシンをいち早く採用。04年にはインクジェットプリンタ（溶剤系）を導入した。「以降インクジェット関連の仕事が増え、今では欠かせない存在になっています」。新技術の動向にも関心を寄せる。「やはりLEDですかね。クライアントに幅広い提案をしていくためにも、是非取り入れていきたい素材です。低価格化がより急ピッチで進むことを切望しています」

一方で、消費者の生活行動の変化を敏感に察知すべく、ホームページ（HP）の提案

やマーケティングの研究にも傾注。「手始めに、自社のサイトを開設したのですが、県外はもとより大手会社からの発注もあつたりと、反響の大きさに驚いています。この有益性をお客様にも提供していければと、HP制作部門の新設も予定しています」

現在、同社は施工（降矢社長、浅川賢一氏）、デザイン（次男・忍氏）、総務（千香子夫人、久保寺和美さん）の少数精鋭5名のスタッフからなる。将来を見据え、若手スタッフを拡充していく方針とも。「人間力と技術をより向上させることで、地元山梨はもちろん、社会に貢献できる企業へ成長したい。最近の看板業務は例えば出力サービスなど、機器の発達でパソコンの知識とある程度の資金があれば、誰にでもできてしまいます。そんな時代だからこそ、当社では各部門での職人を目指します」

成長は続く。「新しい技術は若いスタッフに任せます（笑）。私自身は、経験とアナログならではの技術を指導していきたいですね」。アナログとデジタル技術の融合。四半世紀に及ぶ実績の賜物だろう。